

## 大きく変わる学校

校舎移転で一貫教育深度化

### 和洋国府台女子中学校



1897年、現在の千代田区富士見に設立された和洋裁縫女学院は、戦災で市川市の国府台に移転、1949年には和洋女子大学として新たにスタートしました。そしてその大学に接続する高校、中学校として開校したのが現在の和洋国府台女子中学校・高校です。現在は、中学校と高校が別のキャンパスにありますが、2017年度からキャンパスを統合し、中高一貫教育を深度化していくことになりました。

#### 1. 中学校を国府台キャンパスに移転

現在の中学校(国分キャンパス)は、市川駅・松戸駅からそれぞれバスで約20分の住宅街の中にあり、高校は、大学と同じ国府台キャンパスにあります。国府台キャンパスは京成電鉄国府台駅から徒歩10分、市川駅からのバスもあります。中学校と高校は徒歩15分ほどの距離で、現在は互いの校舎を行き来する部活動などがあるものの、授業はそれぞれの校舎で行うのが原則で、中学校は中学校、高校は高校といった単独色が比較強い学校運営でした。

現在、大学の新学部計画もあり、その関係でキャンパスの整備が計画されたことから、この機会に中学校を、高校と同じ大学のキャンパスの一角に移転し、一貫教育を深度化していくことになりました。

中学生が高校生と一緒に生活することで、中学生も高校生も、生活面・学力面ともに『視野・情報』が広がり、生徒ひとり一人が個々の活動に打ち込める環境になります。また、大学と一緒にすることで、これまで、主に、社会科で実施していた大学教員による授業を増やすほか、例えば大学の電子顕微鏡を使った細胞観察の授業など、大学の高度な施設も十分活用する授業も実施しますので、より充実した教育環境になります。現在の中学校校舎の向かい側には大きなグラウンドがありますが、こちらは今後も部活動や行事等に活用していきます。

#### 2. 新たな教育システムの実施

時期を同じくして、2017年度から英語で「和洋ラウンドシステム」を本格的に実施します。これは耳

から入る英語学習で、多くの英語を聞かせ、何度も言語材料に触れさせること(スパイラルな学習)を重視するカリキュラムです。教科書を1年間で4~5回繰り返し、単に教科書の本文を暗記的に詰め込むのではなく、内容についての先生と生徒の英語によるやり取りやペア学習、グル-プ学習がふんだんに取り入れられていて、生徒同士も互いに刺激しあう授業展開です。このため、力の差がある生徒集団でも全体の英語力が上がっていきます。中1から高3まで、このシステムで英語力を身に付け、自分の意見を英語で発表できる力を培っていきます。

成績管理の面では、昨年、中学校での学力推移調査と高校でのスタディサポートの連続が完成していて、個人カルテを含め、生徒の成績推移が一元管理されるようになりました。中高の教員が一体となって生徒の学力伸長を見て行くこととなります。

生徒会や部活動の面では、運動部はもちろん、ほとんどの部活動を中高一体化して、連続性の中で質の向上が図られます。先輩から後輩へ、知識・技術・思考訓練の機会の増加と伝承によって、活動が高度化します。

#### 3. 2017年度入試

新たに英語入試と適性検査型入試を実施します。  
推薦 12/1 2科基礎+面または英リスニング+グループワーク(少人数で課題に取り組む)30名、1回  
1/20・2科4科選択30名、2回 1/24・2科または2科+英筆記選択15名・または適性検査10名、3回  
2/6・2科4科選択5名